

# 不登校児童生徒への「家庭訪問」について

## 何を目的に支援するかが重要！

### 子どもとの関係づくり

#### 「教師への信頼感をつくる」

- ・教師としての立場ではなく身近な一人の大人としてかわり、自分の趣味や好きなことなどについて話をすることで、自分のことを知ってもらう。
- ・子どもの興味・関心のある活動を子どもと一緒にいたり話をしたりする。
- ・突然の家庭訪問で不安な気持ちを与えないように、事前に予定を伝えておく。
- ・学校や登校に強い不安をもっている場合には、無理に学校の話をしていない。

### 学校の情報提供

#### 「学校への安心感を高める」

- ・子どもが心配していること（学習、行事、進路等）について情報提供を行う。
- ・友だちからのメッセージを伝えたり手紙を渡したりする。
- ・本人と会えなくても、保護者に会ったり、手紙やメモを残したりする。
- ・プリント、ワークなど家庭で取り組める学習や活動を提案する。

### 保護者との関係づくり

#### 「保護者の不安に寄り添う」

- ・保護者の不安な気持ちを十分に受け止めて、保護者の思いに耳を傾ける。
- ・短い時間でもよいので、顔を合わせて保護者の話を聞くようにする。
- ・学校が気にかけていることが保護者に伝わるように、本人に会えない場合でも、定期的に家庭訪問を行う。

### 家庭から情報を得る

#### 「家庭での生活について情報を得る」

- ・子どもの生活状況（体調・食事・睡眠等）や心理状態を、本人や保護者・家族に会って把握する。
- ・「家では何をしていますか」「勉強はしていますか」など、無理に子どもの話を聞き出すことは、保護者の抵抗感が高まることもあるので、十分に配慮する。

## いつ？ だれが？ どれくらい？

### 子どもの状態に合った家庭訪問を行きましょう

家庭訪問をいつ行うか、誰が訪問するか、どれくらいの頻度で行うか等は、家庭訪問で子どもに会った方がいいのかも含めて、家庭訪問の目的や子どもの状態が変わってきます。不登校の子どもや保護者は大きな不安を抱えているとともに、その思いには波があり、変化もしていきます。家庭訪問を控えてほしいという保護者の言葉を受けて、よかれと思って家庭訪問を控えていたことが、後になってみて「以前は頻繁に来てくれていたのに」「学校に見捨てられてしまった」と受け止められてしまうこともあります。現在の支援策が子どもの状態に合っているかについては、その時々振り返り、確認しましょう。保護者の理解・協力を得て、子どもの思いを確認しながら、子どもの状態に合った支援策を検討することが大切です。